
プラネタリウム

仁義無きスモーカー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

プラネタリアム

【Nコード】

N8418B

【作者名】

仁義無きスモーカー

【あらすじ】

『そつち、星見えるの?』 「気持ち悪い程度に。」 学校サボってバイクで旅する根暗不良と、そいつに振り回される彼女。そんな二人の話。

(前書き)

「恋愛色薄くね？」 注意報発令中。

僕は夜の街を眺めながら紫煙を吐きだした。

とつくに肺に馴染んだそれは、今では僕にとってため息の変わりみ
たいなもんになってる。

『…また煙草、吸ってるでしょ?』

今度は本当にため息をつく。

彼女は本当に勘が鋭い。

「…なんでわかんのだ?」

『わかるもんはわかる!』

僕はもう一度ため息をつく、電話を耳から遠ざける。

『止め　何回　気が　!?　にバカ　!』

漏れた怒声からしてしばらく説教は続きそうだ。

煙草をくわえなおしゆっくりと味わう。
毒はすんなりと体に吸い込まれていく。

緑が多い田舎街。

『ねえ。』

「ん？」

『そつち、星とか見えるの？』

彼女の言葉に僕は空を見上げる。

普段空なんてまったく見ないから、その星の多さに驚いた。

それだけ空気が澄んでいるということだろうが、ここまで見るとはつきり言ってちよつと気持ち悪い。

『で、どうなの？』

「ちよつと気持ち悪い程度には見えるよ。」

『…それ…見えるのか見えないのかどつちななのよ…』

「だから、すごい良く見える。」

『まったく……あんたは……』

彼女は何やら呆れた様に何か呟いていたが、僕はあまり聞いていなかった。

無感動な僕の心でさえも、この星空には何か動かされるものを感じたらしい。

本当に、偽物みたいな空だ。

小さい時に一度、こんな空を見たことがある。

あれは…

『どっつ？綺麗？』

彼女の声が僕の意識を引き戻す。

「…前に言ったよね。この世界にね、綺麗なモノなんて何も無いって。」

『ああ…あの自殺志願者みたいな発言ね…。』

「ま、否定はしないけどさ。」

『今の発言についてはこっちに帰ってきてからじっくり説教するわ。…で、それがどうしたの？』

僕は煙草の火を消しながら言う。

「僕ね、一つだけ美しいと思うモノ、見つけたよ。」

『…何？どーせ星空とか言うんでしょ！』

電話口からケラケラと彼女の笑い声が聞こえる。

「…違うよ…こんな気持ち悪い空なんて。」

『…ま、あなたにかぎってそんなことはないとは思ってたわよ…。』

酷い言いぐさだが否定できないのが悲しい。

『で、美しいモノって?』

「君だよ。」

『.....は?』

心配症の彼女にそんなことを言ったらどうなるか、わかっていて何故こんな言葉を選んでしまうのだろうか？

『……………気を付けてよね？本当に……。死んじゃうとか、やだし……。』

「わかってるよ、ちゃんと五体満足で帰る。」

『約束？』

「約束。」

なんとなくわかった。

僕が彼女に意地悪をする理由。

「あのだ。」

『何？』

「僕と結婚して？』電話切るよ？』」

今度は笑いは漏れなかった。

「冗談じゃないよ、今度は。」

『……はあ……。本当あんたってわかんない。』

彼女はしばらくブツブツと何か呟いていた。

「で、返事は？」

『No。当たり前でしょ？』

「何で？」

『真性のバカ？…問題、私達の職業は？』

「ニート予備軍？『シメルよ？』高校生です。」

僕は煙草を消す。

「結婚つてのは半分冗談なんだけどさ…」電話切る。『大好きだよ、君のこと。』

プツッ…

電話は切れたが恐らく最後の言葉は聞こえたはずだ。そして恐らく数秒後には顔を赤らめた女の子が僕の携帯を鳴らすだろう。

そして予想通りに携帯は彼女の名前を映し出す。

僕は笑いをこらえながら通話ボタンを押す。

『……………。』

「僕と付き合ってください。」

『…あんたって本当に嫌なヤツ…。』

「返事は？」

『根暗だし、性格悪いし、不良だし、私意外の女の子には優しい癖に私には意地悪だし…それに…』

「…言ってくれるね…。」

世界で一つだけ、美しいモノ。

『でもね…。』

「ん？」

『大好き。』

彼女の心。

「そう言っと思った。」

『…やっぱり嫌なヤツ。なんでよりもよってこんなヤツを…。』

僕は本当にガキだ。

だから美しいモノを、

彼女の心を掻き乱したくなる、
そう思うんだ。

(後書き)

読んで頂き誠にありがとうございます！

御意見、御指摘、激しく踊りながら御待ちしております。

(一緒に踊って下さる御方も随時募集中です)

余談ですが「僕」のルーツはBlanky Jet Cityの『
プラネタリウム』にあります。

興味があれば是非聴いてみてください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8418b/>

プラネタリウム

2010年10月20日19時29分発行